

## 編集者のことば

総合都市研究は都市研究センターの研究紀要として年間3冊発行している。原則として、そのうちの2冊はセンターが実施している研究プロジェクトの特集号として編集される。1992年度の最初の号である、この46号は研究員を中心とする一般応募論文9編と公開講演会記録から成る。それゆえ内容は様々だが、終りの3編の論文と公開講演会は都市研究センター現所長石田頼房教授が中心となり、昨年度までセンターの奨励研究チームとして研究会開催などの活動を行い、さらに本年度も研究活動を続けている「都市史・都市計画史」研究チームの成果であり、それを本号の中核として編集した。

この号の最初の論文は、1988年からの4ケ年間実施してきた研究プロジェクト「大都市高齢社会の問題状況と政策課題の総合研究」の成果の1つである。この研究プロジェクトは昨年度をもって、一応終了したが、この論文を含め、それぞれのサブグループのとりまとめ研究は継続しており、本誌の第39号、第42号に引きつづき本年度の3冊目は、その特集号として編集する予定である。さらに、このプロジェクト研究の成果は、本センターの事業の1つである都市研究叢書として本年度および次年度にかけ4冊が「日本評論社」から出版される予定である。

2番目の論文は、地域の文化統合にとって祭が不可欠とみなされていることを明らかにしたものである。続く2編は、本年度より開始された4ケ年研究計画「大都市の地域経済構造と環境の保全創造に関する総合的研究」の先駆的研究の成果と考えられる。1編目は東京とその周辺の公園を対象に、都市公園に共通するイメージの構造の描出を試みたもの。次は都市の水辺空間の評価問題を水利用の際の水質評価の観点から考察した論文である。

次の2編は都市交通関係の論文であり、その1つ目は都市鉄道が存在しない都市を対象に、都市鉄道の開通を仮定した場合に考えられる交通サービス条件の変化がおよぼす交通手段選択の影響要因の分析。2編目は米国の公共交通機関および公共建物を対象に、障害者のアクセスの発展の歴史的経緯を法や障害者自身の運動の2点の要因から検証したものである。

以下「都市史・都市計画史」関連は、まず1923年大阪市社会部調査課の『余暇生活の研究』をもとに、日露戦後から第1次大戦後における都市官僚の労働者観を把握しようとした研究。日本近代都市計画における土地高度利用をめぐる課題、議論、展開に関する研究の第一報。東京の人口の自然動態の画期が1900年頃および1955年頃の2つであることを明らかにし、そこから近代都市のイメージにアプローチした論文。そして、1991年12月2日の第4回都市研究センター公開講演会へと続く。

この号もまた発行が若干遅れてしまったが、原稿の締切期日の厳守にご協力いただけますよう研究員の皆様方の協力をお願い申し上げます。

1992年9月

望月利男